

⑤3 福岡空港滑走路増設事業

受賞機関 国土交通省 九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所
国土交通省 大阪航空局

キーワード 滑走路増設、耐震対策、混雑空港

全建賞審査委員会の評価ポイント

国内外の重要な交通拠点である空港において、段階的な施工順序を工夫し、供用中の滑走路に隣接する厳しい施工条件の中、滑走路増設工事を完遂した。空港運用を維持しながら耐震対策を実施し、設計や施工時に3次元モデルを活用して地中構造物との干渉を防止し、作業の効率化を実現した点が評価された。

1. はじめに

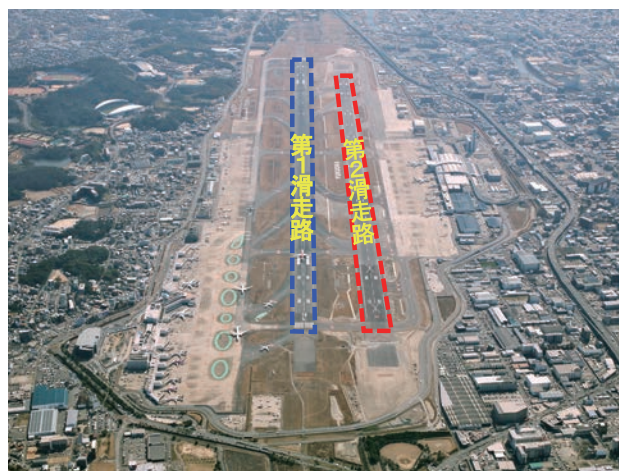
福岡空港は、JR博多駅から地下鉄で5分とアクセスが非常に良好で、九州においては主要な拠点空港として、人流・物流を支え、地域の社会経済活動の発展に大きな役割を果たしている。また、東アジアに近接するという地理的優位性を生かし、アジアの玄関口として、ビジネスや観光などの交流の場としても重要な役割を果たしている。

福岡空港の令和5年度の年間旅客数は2,494万人で、滑走路増設事業前の1本当たりの利用者数は、国内最多となっている。また、平成28年3月に、福岡空港は国土交通省から混雑空港に指定されている。

2. 事業の概要

本事業は、滑走路処理能力を向上し、航空機の混雑・遅延の解消及び将来の航空需要へ適切な対応を行うため、滑走路の中心線間隔210mという近接した位置に2本目の滑走路を増設するものである。

滑走路の増設に至るまでには、平成15年度から国・県・市が連携・協力し、パブリック・インボルブメント



福岡空港 第1滑走路と第2滑走路 全景写真
(令和7年2月24日撮影)

の手法を取り入れた「総合的な調査」を実施することで、一般の方々からの意見を取り入れ、計画を策定した。滑走路の増設事業は、これらの「総合的な調査」や「構想・施設計画」の検討、「環境影響評価」などを経て、平成27年度に事業化された。関係者の努力と、地元の理解を得ることで、当初想定された事業期間、事業費により供用を開始することができた。

3. 事業の成果

本事業では、供用中の限られた空港用地内において、航空機の運航に支障を来さないよう配慮しながら、施設の移転・整備を進めた。令和7年3月20日、第2滑走路の供用が開始され、滑走路の処理能力が年間17.6万回から18.8万回に拡大し、空港能力と利便性の向上が実現した。今後の滑走路処理能力の向上として、環境アセスメント上では、需要動向を踏まえ、地元の理解を得た上で増枠の検討を行うことで、年間21.1万回と想定されている。



福岡空港増設滑走路・国際線旅客ターミナルビル等増改築供用式 (令和7年3月2日)

4. おわりに

福岡空港は、福岡及び九州地域の活性化に大きく貢献しており、成長著しいアジアに近接している。今後、さらにヒト・モノの交流が活発になる福岡において、空港のみならず、港や鉄道とも連携し、引き続きアジアの玄関口にふさわしい機能強化を図り、人流・物流のゲートウェイづくりを進めていきたい。

賛助会員 日本道路㈱、㈱ガイアート、㈱NIPPO、東亜道路工業㈱、大成建設㈱、若築建設㈱、あおみ建設㈱、五洋建設㈱、㈱大林組、東洋建設㈱